

令和6年度第1回多治見市子育て支援会議 会議録

会議名	令和6年度第1回多治見市子育て支援会議
日 時	令和6年7月2日（火） 14時30分～16時30分
場 所	多治見市役所 駅北庁舎4階大ホール
議 時	
<p>(1) 第3期たじみ子ども未来プラン策定について</p> <p>(2) 子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査結果報告</p> <p>(3) 子どもの未来応援調査結果報告</p>	
内 容	
<p>● 挨拶</p> <p>事務局：これより令和6年度第1回多治見市子育て支援会議を開催する。開催にあたり、福祉部長より挨拶を申し上げる。</p> <p>部 長：(あいさつ)</p> <p>事務局：(新任委員の紹介)(事務局の紹介)</p> <p>会議の成立について、本日、3名の委員から欠席のご連絡をいただいているが、委員19名のうち半数以上の方にご出席いただいているため、多治見市子育て支援会議条例第6条第2項の規定により、会議が成立していることをご報告する。ここからの進行は会長にお願いする。</p>	
<p>● 議題1</p> <p>事務局：(第3期たじみ子ども未来プラン策定について 説明)</p> <p>会 長：ただ今の報告について、質問・意見はあるか。</p> <p style="padding-left: 2em;">(特になし)</p>	
<p>● 議題2</p> <p>事務局：(子育て支援事業計画策定に関するニーズ調査 結果報告)</p> <p>会 長：ただ今の報告について、質問・意見はあるか。</p> <p>委 員：報告の中で、すごく危険だと思った箇所があった。冊子の51頁。「子どもが怪我や病気で普段利用している教育・保育の事業が利用できなかった場合に、この1年間に行った対処方法」で「仕方なく子どもだけで留守番をさせた」という回答が約1%ほどある。子どもの年齢が1歳の回答もあり、1歳～5歳あわせて7名くらいいる。もし、病気の子どもを家に一人にした状態で仕事に出たということであれば、こういった家庭こそ支援が必要では。</p> <p>会 長：これについて、事務局から。</p> <p>事務局：課題として受け止めている。匿名の回答であり、回答した家庭の状況は把握</p>	

できないが、例えばファミリーサポートセンター事業や、一時預かり、他にも支援の方法があるかもしれない。これらのサービスの周知が足りないという側面もあると思う。こういった回答も踏まえて、次の計画を策定していきたい。

委員：自由意見について。この内容は、各分野、各担当課に意見として伝わっているのか。

例えば、子どもを保育園に入れていて、下の子を出産して育休を取得すると、上の子が退園させられるということを苦にしている意見が多かった。

「給食費無料化」「高校の医療費無料化」よりも早急に対応する必要があるのでは。

保護者は、大変なアンケートながら、伝えたいということ在必死で書かれているので、これを分けて、各課に提出したら、アンケートを取った意味が出てくると思う。

事務局：保育に関しては、育休退園の問題、それ以外にも「誰でも通園制度」の話もあり、ご意見をたくさんいただいた。

私は、子ども支援課では子育て支援を担当しているが、同じ課の中に幼稚園・保育園グループがあり、意見の中には学童に関するものもあるので、今後どういう事業を展開するかにあたって、これらの意見もそれぞれの課と状況を共有しながら考えていきたい。

委員：育休退園は国のルールか、市のルールか。

事務局：基本的には就労している方の保育をする、これは全国的なことではあるが、育休の場合どうするかは各市それぞれ。受け皿として受け入れ可能かどうかも踏まえて、各市で判断していると思われ、全国一律ではない。

委員：では、多治見市も独自に、例えば、今後は育休退園をなくすことは可能ということか？母親にとっては、上の子はお友達もできて、楽しく通っているのにやめなきゃいけない、そこにもう1つの苦がある。そういうことも具体的に考えていただくといい。

部長：このアンケートでも、日々の窓口でもそういう声をたくさんいただいている。

現在の多治見市は、3歳未満児の入園希望が日々ある状況。就労される方、今から預けたいという方を優先して、対応できるキャパで考えると、そうせざるを得ないというのが現状。

非常にたくさんのご意見を日々伺っているので、何とかそこを乗り越えられるよう考えていくのは、命題として認識している。問題意識としてはしっかりとある。

委員：ただ、全国的にも、2025年から、保育の預かりと子どもの数が逆転するといわれている。おそらく近い将来、多治見市も保育施設がそのまま残るなら、

供給過多になってくる可能性はあり、このプランの中でも、育休退園廃止という施策に移ることができるであろう。それぐらい少子化は進んでいるというのが全国的な現状。

委員：私も日々、お母さんたちと接する中で、育休退園というのは、日々の生活を脅かすような環境の変化で、子どもの変化が親にとっても辛いと聞いている。加えて、新生児のお世話でさらにきつい。本当に悲痛な声を聴いているので、是非検討していただきたい。おそらく、第2期計画策定の際も、同様の意見はあったと思う。自由記述を読んで、やはりこの育休退園というのはもう限界にきている、というイメージを持った。(保育の需要と供給の)バランスが逆転する時期が来るというのも、なるほどと思うが、今困っている保護者の受け皿として、育休退園廃止の他にも、新しい受け皿があるといいのかなという印象を受けた。

もう1点。保護者は子どもの遊び場を求めているととても感じた。市外の施設の具体的な名前が出ていて、何度も出てくる名前もあったので、やはりこういう環境は、若い世代を呼ぶのだろうかと改めて実感した。

委員：一番言いたいのは、いろいろな仕組みを考えて、制度を整えて周知するものの、実情が伴っていないというのが現実。

人をそろえていかないと、何かをやろうとしても追いつかないのが現状だと思う。担い手を呼び込むとか、人を育てるとか、そういったことをもう少し重点的にやったほうが将来的にいいのかな、と思う。

2025年になったら保育の現場が逆転するという話だが、ならば、今のうちに、働いている保育士さんで病児保育ができるような方を育てて、人がもし余ってくるということであれば、病児保育のほうに手が回せるような、そんな準備をしていくと、(保育士になったものの、子どもが少なくなって)仕事が無くなってしまったといった状況を防げるのかなと思った。

会長：とても大きな問題ですが。市の方でも、自由記述のところもじっくりと読んで、現場に即したことをぜひプランに反映させていただきたい。

● 議題3

事務局：(子どもの未来応援調査 結果報告)

会長：ただ今の報告について、質問・意見はあるか。

会長：事務局として、この概要から、今度の未来プラン策定に向けて、何かヒントはあったか。こういうところは重要だな、とか。

事務局：例えば、現在、学習支援事業は市内2か所でやっている。それについての傾向等を聞きたかった。また、子ども食堂。現在市内では10団体以上が積極的に開催しているが、どういった周知をすると参加しやすいのか。調査結果

には、利用することによって差別的にみられてしまうのではないか気になる、という声も入っていたので、では、誰でも来れる場所、というPRを積極的にしたほうがいいのか、という新たな展開も考え始めている。

委員：例えば、市はどんどん広げようとして、誰でも来れるよう門戸を広げると、みんな来るようになり、今度は予算が足りないので制限する、ということはないか。そこが一番問題。

事務局：現在、子ども食堂は、多治見市がやっているというよりは、地域の皆さんが自発的に、各地域で展開してくださっている。市のほうでも、いろいろな団体に無理のない範囲でチャレンジしていただければ、と考え、昨年度から補助制度の枠を拡大した。そのようなことも将来的にどうしていくのか、考えていきたいと思っている。

会長：多治見市は、貧困率的には低いとみてよいか。

委員：子ども食堂にかかわって活動している。現在は、食の提供ということで、認知を広げる活動をやっているが、早い子は開始時間1時間くらい前からずっと並んで待っている子もいるので、待っている間、お手伝いをしてもらって、一緒に食堂をやったりした。今後は、子ども食堂の開始前の時間に仕事を一緒にやったり、勉強をみたり、体を動かしたり、習い事になりようなことをできないか、その中で、ご飯も食べて帰ってね、ということを考えている。

他の食堂でも、ただ食べ物の提供をするだけだと、やはり、人の目が気になってしまうということがあると思うので、遊びの提供、その延長で食事の提供もできるという方向で上げていっていただくといいのでは、と思う。

委員：子ども食堂について。回答の「必要だとは思わない」の「必要」とはどういうことなのか、考えたほうがいいのかと思った。ニーズ調査で、行くのは難しいけど配達だったらほしいという声、長期休みの時のサポートがあったらいいのに、お昼ご飯にあったかいお弁当を食べさせられたらいいのに、という声がある。今、国の方でも家庭支援の話が出ているが、ニーズ調査の中でも、小さい子を持つ家庭で家事をするのがすごく大変で、幼児食や、子どものための食事を作るサポートがあったらいいのに、という声もあった。子ども食堂というものが、今は貧困家庭を支えるようなものとして認知が広がっているが、もう少し違う見方をしてもいいのかな、と思う。

「必要だとは思わないから（子ども食堂を利用していない）」という回答が78.5%あるが、（違う認知の仕方が広がって、）必要だと思う方が増えれば、利用も増えると思う。食事サポートに関する声もたくさん（調査結果に）あったので、そういう見方もあるのかな、と思った。

事務局：先ほどの話にもあったとおり、子ども食堂は、今はどちらかといえば「子ど

もの居場所」「子どもの集う場所」として展開する方向で、各団体から意見が出ている。食事の提供はもちろん、そういった食に困っている子どもたちを救いたいという気持ちは根底にあるが、それだけでなく、子どもたちが気軽に集える場所、それが、公共施設だけではなく、民間の、本当に身近なところに集まれる場所を、という意図がある。その1つの手段として、食事の提供、食堂はどうか、という話が各団体からも実際に出ている、ではどういうPRや周知をしていくとその辺りが伝わるだろうか、という相談を始めたところ。

配達の話も実際には出ているが、先ほど少し、人材の育成も必要ではないかというお話もあったように、担い手の確保の問題、そちらも含めてバランスを取りながら考えていかなければならないな、という認識でいるところ。

会長：その他、ございませんか。質問、ご意見がないようでしたら、次までに、もう一度委員の皆さんのほうで精査していただいて、こんな問題があるのではということも是非ご意見として出していただければと思います。議事は以上です。

事務局：(連絡事項)